

第62回渋川摂食嚥下研究会レポート

日 時：令和元年10月1日（火）

午後7時00分～

会 場：ほっとプラザ4階大会議室

I 事例報告：

『在宅嚥下障害者に対する医療機関との連携で行った予防的関わり』

講師：渋川市スポーツ健康部 介護保険課 山田 由里 保健師



第1部は医療機関と渋川市介護保険課との連携の事例報告です。「ずうーっと食べ体操」を取り入れた事例ですが、摂食嚥下機能が低下している方は体操ができません。

くいという報告は、今後、高齢者の心身機能が低下する「フレイル」状態になっている方を見つけるのにも一つの目安となるかもしれません。

また、これらの関わりの中で、

- ①運動機能、認知機能の低下、低栄養を伴っている。
- ②かなりの機能低下でも生活できて自立しているため、介護認定や認知症診断に至っていない。
- ③摂食嚥下機能の低下を主訴として受診している人はフレイルのハイリスク者であるが、地域のサロンや介護予防教室などに来ている人は一部であることから、

「受診医療機関との連携で、適切な時期に予防的な関わりが持てることでリスク軽減につなげることができる。」との報告がありました。関係医療機関にも積極的に声掛けをしてもらい、フレイル予防につながればと思います。

参加者内訳

職種	参加人数
医師	2
歯科医師	10
薬剤師	1
保健師・看護師	19
歯科衛生士	7
ST・OT・PT	16
管理栄養士・栄養士	7
ケアマネ	6
介護員	45
その他	8
合計	121

「ずうーっと食べ体操」の個別指導を介してのケースまとめ

ケース	紹介時の状態	介入内容	介入して明らかになったこと	介入後
Aさん (60代後半)	嚥下障害 誤嚥	ずうーっと食べ体操指導	50代から原因不明の発作的な咳がある。 口腔内乾燥ほか	体操で唾液がでて効果を実感。継続の意欲あり。 セルフケアへ
Bさん (80代前半)	嚥下障害	ずうーっと食べ体操、ぐんぐん体操指導、教室の勧め	運動機能の低下、貧血等 訪問したところフレイルが認められる状態	教室参加はキャンセル セルフトレーニング希望
Cさん (80代後半)	声がかすれる 時々むせる 口が渇く	訪問指導 (保健師・ST)	BMI 17.5 運動・認知機能の低下 フレイルの状態	BMI 18.8 むせるの自覚減少 各種教室に参加

(事例報告より一部修正して掲載)

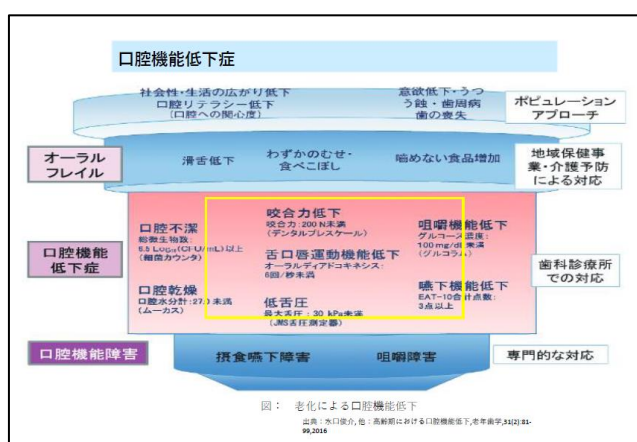
Ⅱ 講演：『口腔機能向上による嚥下機能への影響』

講師：いづか歯科医院 院長 飯塚 正彦 先生

摂食嚥下研究会 初登壇の飯塚先生です！初ということで自己紹介のスライドから😊先生マメですね～

老化による口腔機能の低下についてはいろいろな職種で対応しておりますが、その内「口腔機能低下症」と判断されるものが歯科診療所での対応ということです（下表参照）。改めて、嚥むことの大事なことが分かる講演でした。質疑応答では「咀嚼能力測定用グミゼリー」の話題に。グミを30回嚥んでどれだけ細かくできたかを10段階で判定するものだそうです。

気になる方は「“咀嚼能力判定用グミゼリー”公式ホームページ」よりご覧ください。製造元はUHA味覚糖（株）です。20個入り6,000円～



★次回のご案内(予定)★

第63回 渋川摂食嚥下研究会

日時：令和元年12月 3日（火）午後7時～

会場：渋川ほっとプラザ4階

テーマ：『脳の病気と摂食嚥下障害』

講師：渋川医療センター脳神経外科

合田 司 先生（摂食嚥下研究会会長）

連絡先：渋川地区在宅医療介護連携支援センター 高橋・成田・阿久澤

〈住所〉 渋川市渋川（長塚町）1760番地1 渋川ほっとプラザ2階

〈TEL〉 0279-26-3990 〈FAX〉 0279-26-3903

〈E-mail〉 shibu-renkei@mail.gunma.med.or.jp